

岡崎（※）・高知県高知市長の3首長から基調講演をいただきました。その後、第1部、第2部のそれぞれの基調講演の後、四国の防災・減災について意見交換を行いました。

なお、セミナーには、四国内の市町村長84名（代理32名含む）、四国南海トラフ巨大地震対策戦略会議メンバー他約320名の皆様にご出席いただきました。

《基調講演題目》

【第1部 東日本大震災からの復興】

基調講演『東日本大震災からの復興』 福島県 相馬市長 立谷 秀清 氏

【第2部 台風12号、11号における災害対応】

基調講演『水害の減災でできること、できないこと』徳島県 那賀町長 坂口 博文 氏

基調講演『水害に強いまちづくり』高知県 高知市長 岡崎（※）誠也 氏

（※岡崎市長の崎は「大」が「立」）

■TEC-FORCE活動報告会について
～被災地に届ける安全安心と復旧への力～

【企画部 防災課】

「これからのTEC-FORCE」をテーマに、多様化する自治体の支援要請に対応し、今後のTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）の更なる活躍を考える報告会が、2月3日に関東地方整備局の主催により約250名規模で中央合同庁舎において開催されました。

四国地方整備局からは、国際緊急援助隊専門家チームとしてタイへの排水支援に派遣された地方事業評価管理官が報告しました。

国土交通大臣及び技監によるあいさつがあり、更に、前 国土交通省 技監及び藤井京都大学大学院教授の基調講演が行われました。活動報告では、東日本大震災、伊豆大島土砂災害及び広島土砂災害について、各地整等から東京都大島町長を含む12名の方が発表され、最後には水管理・国土保全局防災課長から「これからのTEC-FORCE」についての講話で締め括られました。TEC-FORCEの活動内容や重要性等の認識を深め、更なる活躍を考える良い機会となりました。

○四国地整報告者

・地方事業評価管理官

題目 海外の災害への対応

～洪水被害を受けたタイ王国での活動報告（国際緊急援助隊専門家チーム）～

タイでの活動内容

国際緊急援助隊専門家チーム（排水ポンプ車チーム長）として、国土交通省から現地に派遣された排水ポンプ車を使った氾濫水の排水対策に関する指導・助言を実施。

■女性技術者による意見交換会を開催しました

【企画部 企画課】

平成27年2月2日、「女性技術者による意見交換会」と題して、建設業に携わる建設会社、建設コンサルタント、公務員（四国地方整備局）の女性技術者12名にお集まりいただき、自らの現場での経験談も交えつつ下記の3つのテーマについて話し合ってもらいました。

【テーマ1：建設業界に就職したきっかけ】

それぞれに違ったきっかけを持つなかで、「小さい頃に瀬戸大橋が開通したり、近所の大きなバイパスが出来たのが印象に残っていた。」といった話や、「土木出身ではなく元々はデザイン系の仕事をしていたのが、グラフィックソフトを使える人材として採用された。」といった話もありました。

また、就職後に感じたギャップとして「契約社員の方もいて思ったより女性がいた。」「施工管理など学校では学んでおらずどのような仕事か分からなかった。」などの意見が出されました。

【テーマ2：女性が働きやすい職場環境、建設現場環境について】

職場環境の課題として「現場のトイレは気になる。」「幼児保育や子供の病気への対応など家庭と仕事との両立に周りの理解はまだまだ進んでいない。」などの意見が出されたほか、女性ならではの働き方として「家庭で時間が制限されるだけに、効率良く時間管理できるようになった。」「何かあっても周りが対応できるようにデータ整理を心がけている。」といった仕事のコツも聞かれました。

【テーマ3：これからの女性技術者の採用について】

子を持つ親の視点から「医者や博士になりたいと言う子供はいても、土木技術者になりたいとは言わない。道路や川は身近な話のはずなのに。子供達が職業として土木を目指してくれるような取り組みが必要。」「子供に自分の仕事について話すとき、『大変ではあるけど、楽しいよ。』と前向きに伝えるようにしている。」などの率直な意見が出されました。

一方、現実として「昔は採用者が多く若手の育成期間も充分にあったが、最近では即戦力として求められるためプレッシャーが大きいのでは。」「人を育てるつもりがないと、業界は駄目になる。」といった厳しい声も聞かれました。

最後に、将来の建設業の担い手である学生などに向けて「建設業界は入れば楽しい。目に見えてものが出る達成感がある。」「女性が増えれば雰囲気も変わる。」などのメッセージがありました。

以上を受け、四国地方整備局企画部企画調査官より「みなさんの努力に甘えていた部分もあったと改めて認識させられた。環境面など魅力のある建設業にしていくための努力や、根気強く人材を育てるための努力が必要であり、今後もアドバイスをお願いしたい。」との講評があり、意見交換会は閉会しました。

《参加者の所属・役職・氏名（敬称略）》

(株)広瀬組 工務部 技術主任 岡田 扶美
(株)合田工務店 建築本部 建築部 建築課 主任 片岡 賢美
(株)藤田組 代表取締役 藤田 由美
(株)小島組 土木部 関本 笑弥
(株)四電技術コンサルタント 徳島支店 環境部 徳島グループ課長 小藤 美樹
四国建設コンサルタント(株) 技術二部 地質調査課 課長補佐 仲間 真紀
(株)フジタ建設コンサルタント 第1事業部 主任 大寺 礼子
(株)第一コンサルタンツ 設計一部 地盤防災課 山内 佐恵
四国地方整備局 徳島河川国道事務所 河川調査課 係長 相田 晴美
四国地方整備局 香川河川国道事務所 高松国道維持出張所 管理係長 綾 早都美
四国地方整備局 中村河川国道事務所 四万十川出張所 技術係長 田代 早紀
四国地方整備局 道路部 道路工事課 松尾 怜

■平成26年度 河川愛護月間 絵手紙 表彰伝達式について

【河川部 河川管理課】

国土交通省では、河川愛護の意識が広く国民の間で醸成されることを目的に、毎年7月を河川愛護月間としており、推進特別事業として、7月から9月までの間で、全国の小学生・中学生・高校生・一般の方々を対象に、「川での思い出、川への思い」をテーマとして、一枚のはがきに絵と文章を組み合わせて描いた“絵手紙”を募集しております。

平成26年度においては全国各地から1, 136点の作品が寄せられ、この度、国土交通本省において、有識者で構成する選定審査会により審査が行われた結果、香川県丸亀市立城乾小学校3年生の奥田亜美さんの作品が優秀賞（国土交通事務次官賞）に、徳島県鳴門教育大学附属小学校2年生の湯浅聡一郎さんの作品が優良賞（水管理・国土保全局長賞）に、また徳島県吉野川市立鴨島小学校1年生の上藤幸歩さんの作品が審査員特別賞に選ばれました。

なお、湯浅さんは昨年最優秀賞に引き続き、2回目の受賞となります。

これを受け、2月16日～19日にかけて、各小学校において、香川河川国道事務所
ページ(3)

及び徳島河川国道事務所により、表彰伝達式が執り行われました。伝達式では、各事務所長等が受賞者の皆様に応募のお礼と受賞のお祝いの言葉を述べた後、表彰状と記念品を手渡しました。

上藤さんは、「川を大切にしたいと心を込めて描いた。」と感想などを述べられました。これからも川に関する活動を通じて、子供たちが川への親しみを感じ、川をきれいに、大事にしようという気持ちをますます強く抱いてもらえればと思います。

■重信川の自然再生を考えるフォーラムについて

【松山河川国道事務所 調査第一課】

平成27年2月2日(月)に松山市道後姫塚の『メルパルク松山』で【第18回重信川フォーラム】(共催:重信川の自然をはぐくむ会、愛媛大学、松山河川国道事務所)を開催しました。

重信川の自然をはぐくむ会 矢田部龍一 会長(愛媛大学副学長)の開会挨拶の後、中学、高校、大学、専門分野研究者が講演を行いました。長年にわたり学習・研究した重信川に関するテーマの講演に、約130名の参加者は、熱心に耳を傾けていました。

《『演題』・【講演者】・講演内容》

※『重信川の水質』

【松山市立椿中学校1年生】

重信川での水生生物調査では「きたない水」と判定されました。各家庭で生活排水改善に向けた努力が必要だと思います。

※『重信川河口と塩屋海岸のゴミ。～それでもぼくらは拾い続けている～』

【愛媛県立伊予農業高等学校・伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム】

重信川河口と塩屋海岸での清掃活動は130回を超えています。拾っても拾ってもゴミがなくなりませんが、地道に活動を続けています。

※『重信川支流の地域資源を活かした観光振興ー東温市ガイドブックの実践ー』

【愛媛大学法文学部人文学科観光まちづくりコース(観光文化系) 代表 浅野裕樹・宇根田菜歩・藤井稀子】

重信川流域の自然や歴史などの地域資源を活かしたエコツアーの開催や、ガイドブックの作成について紹介しました。

※『カトマンズ盆地の河川汚染の状況と重信川』

【愛媛大学大学院理工学研究科 エリナ ビスタ】

カトマンズ盆地の河川は水質が悪くゴミが多いです。それに比べて重信川はとてもきれいです。カトマンズの人々の意識改革が必要です。

※『重信川流域の水草の現状』

【愛媛植物研究会 福岡 豪 会員】

水草の世界でも外来種の侵略が進んでいます。駆除、条例の徹底、啓発活動が必要です。

講演の後、講演者と会場の聴講者の間で積極的な意見交換も行われ、講演者には重信川の自然をはぐくむ会 矢田部龍一 会長から感謝状が贈呈されました。また、事務局からは、平成26年の活動報告並びに平成27年の活動予定を案内し、最後に、同会 副会長松山河川国道事務所長が挨拶を行い、閉会となりました。今回は重信川の環境状況、環境保全のテーマとともに、海外の河川状況の紹介や観光資源としての活用といった新しい視点での講演と意見交換が行われ、有意義なフォーラムとなりました。

■「自転車シンポジウム in 松山」について

【松山河川国道事務所】

平成27年2月9日(月)、愛媛大学南加記念ホールにおいて、「自転車シンポジウム in 松山」が開催されました。本シンポジウムは、松山市中心部において、交通手段としての自転車の利用割合が2割以上を占めるなど、自転車利用が進む中で自転車利用環境の向上を目的とし、松山市、愛媛大学防災情報研究センター及び松山アーバンデザインセンター、松山河川国道事務所が連携して開催したものです。

はじめに、松山市の遠藤副市長の開会挨拶後、道路局環境安全課道路交通安全対策室長により「安全で快適な自転車利用環境の創出を目指して」と題して、全国的な自転車交通の現状や自転車施策の取り組み状況、自転車通行空間の整備をネットワークとして機能させることの重要性等について説明がありました。

続いて、「地球の友・金沢」の三国成子氏より「今なぜ自転車のことを考えるのか」と題し、ヨーロッパにおける先進的な自転車通行環境の紹介、また、行政と住民が連携した事例として、金沢市での実体験を踏まえた自転車・歩行者の安全マップ制作や自転車走行指導帯の整備過程について、基調講演がありました。

次に、松山市都市整備部総合交通課長より「松山市におけるこれまでの取り組み状況について」と題し、松山市は自転車交通の依存が高いものの通行環境が不十分で、駐輪場も不足している等の課題があり、今後は過去に実施した社会実験の状況等を踏まえた自転車ネットワークづくりが必要との報告がありました。

最後に、「みんなで育てる松山の自転車環境」と題し、コーディネーターに愛媛大学理工学研究科の倉内准教授を迎え、パネリストには道路局環境安全課道路交通安全対策室長、三国氏、松山市都市整備部総合交通課長、更には愛媛大学法文学部人文学科の井口准教授、愛媛県土木部都市整備課主幹が加わり、パネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは、「多種多様な道路ユーザーや自転車利用が存在する中で、みんなが不満なく整備するのは至難の業。モデル箇所や社会実験を通して、試行錯誤しながら良くしていくものであり、様々な利用者から意見がもらえる場をつくるなど、改善していくシステム作りが必要。（室長）」、「海外では交通手段に優先度はなく、すべて同等であり目指す環境に対応したまちづくりを定めた上位計画がある。それに倣い、金沢でも自転車利用環境向上計画をつくり、進めている。（三国氏）」、「自転車観光が進んでいるスイスでは、分厚いガイドブックの半分以上を自転車のルールが占めている。地元を大切にしながら観光を楽しむには、ルールをしっかり提示することも重要。（井口氏）」等、様々な意見が出されました。

今回の「自転車シンポジウム in 松山」には、自治体等の行政関係者、コンサルタント、学生、一般等、計200名を超える聴講者が参加するなど、愛媛県における自転車施策への関心の高さを改めて認識することができました。今後も引き続き、愛媛県、松山市等と連携して自転車施策を推進していきたいと考えています。

■平成27年度「道路ふれあい月間」推進標語を募集します！！

【道路部】

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の正しい利用や道路愛護活動の推進に努めていますが、この一環として、平成27年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集します。

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない基本的な施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過ごされがちです。そこで、この推進標語の募集を通して、改めて道路の意義・重要性について考えていただくことを目的としています。詳しい募集要領は下記のとおりです。

多くの方からのたくさんのご応募をお待ちしております。

～募集要領～

《テーマ》

『道路は、生活の向上と経済の発展に欠くことのできない国民共有の、つまりあなたの財産です。みんなが道路と親しみ、ふれあい、常に広く、美しく、安全に、共に楽しく利用し、子孫に受け継いでいきましょう。』

応募資格 小学生以上の方から応募できます。

詳しくは以下のお問い合わせまで。

【お問い合わせ先】

国土交通省道路局道路管理課 総務係 岩谷、五野井
(代表) 03-5253-8111 (内線) 37423、37424
(mail) fureaigekkan-h2x5@mlit.go.jp

【参考】

平成26年度推進標語

最優秀賞（小学生の部） 「あぶないよ スマホ見ないで どうろ見て」
最優秀賞（中学生の部） 「がんばれる 勇気をくれる 道がある」
最優秀賞（一般の部） 「子や孫に つなげていきたい 道がある」

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

「いきいき四国通信」に関するご意見等がありましたら、下記メールアドレスまで
お寄せ下さい。

<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>
《平成27年2月からメールアドレスが変わりました》

***** 「いきいき四国通信」事務局 *****
「いきいき四国通信」の配信中止・配信先変更のご希望がありましたら、事務局
までご連絡頂きますようお願いいたします。

国土交通省 四国地方整備局 企画部
【担当】後藤（内3126）、仙波（内3176）
〒760-8554 高松市サンポート3番33号
電話(087)851-8061/FAX(087)811-8408
<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>
《平成27年2月からメールアドレスが変わりました》